

清右衛門

石見守

〔徳川禁令考高札〕元和二辰年

覺

一商人荷物壹駄四拾貫目、船賃びた錢拾八文之事、
一乘掛荷物も人共ニ同前、壹人ハ六文之事、

如斯船賃相定上者、往還之者無遲滯様可致事、
右之條々於相背者、可爲曲事、

元和二年

對馬守

備後守

大炊守

上野守

伊賀守

〔享保集成絲綸錄二十二〕貞享二丑年十一月

覺

一從先規御法度之趣、無絶可相守事、○中略

一舟渡又は歩行渡之川々におるて、舟賃并川越人足賃、猥に多取之候由相聞候、水之淺深ニ玄た
がひ、問屋方ニ而吟味之上、賃錢員數相定、如何様之輕旅人たりといふ共、高下なく、其場所ニ役
人を出し置、賃錢可取之候、且又船渡之場所におるて、往還之旅人、滯致迷惑之由、令承知候、乗合
之者之内、急用有之罷通り候者、數多可有之候、小勢たりといふとも待せ不置、差當り旅人先々